

デジタル田園都市国家構想交付金事業 効果検証

<令和4年度>

総合政策部企画振興課

デジタル田園都市国家構想交付金事業の効果検証

1. デジタル田園都市国家構想交付金

デジタル田園都市国家構想を推進するため、デジタルの活用などによる観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する取組を支援することを目的に、国が交付するもの。

2. 対象事業

(1) 名称

未来を担うひとづくり推進事業

(2) 事業費

12,533,400円（国補助率1/2）

(3) 事業実績

よりよい未来の実現を担う若者たちを中心とした幅広い世代の市民が、ふるさと井原の「もの」「ひと」「しごと」に出逢い、それらの魅力や課題を見出しつつ、地域の魅力拡大や課題解決に積極的に参画する場を設定することで、『まちづくり』と『ひとづくり』を自分事としてとらえて積極的に関わろうとする意識と実践力を醸成し、ふるさと井原を自らの活躍の場として選び、自分らしさを発揮しながらよりよい未来を自らの手で創り出そうとする高い志と熱い思いをもった〈井原“志”民〉の育成と〈志縁コミュニティ〉の形成を図ることを目的に、以下の事業に取り組んだ。

○ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業（委託料 11,000,000円）

柱1：ひとづくりのまち「井原」の発信

- ①「井原市ひとづくり推進本部」及び「井原市ひとづくり実行委員会」の設置・開催
 - ・井原市ひとづくり推進本部（1回開催）
 - ・井原市ひとづくり実行委員会（3回開催、書面開催含む）
- ②ひとづくりアドバイザーの委嘱及び招聘しての研修会等の開催
 - ・井原市ひとづくりアドバイザー10名（大正大学 教授 浦崎太郎氏 外9名）
 - ・井原市カリキュラム・マネジメント研修会、井原“志”民塾、各学校園研修会等に招聘
- ③ひとづくり事業の周知・理解促進及び資質・能力向上に向けた取組の促進を図るため、まち&ひとづくりフェスタやひとづくり懇談会等を開催
 - ・井原市まち&ひとづくりフェスタ（兼井原市ひとづくりネットワーク懇談会）
 - 日時 令和5年2月5日（日）13:00～16:00
 - 会場 芳井生涯学習センター ホール等
 - 参加者 200名（中高生39名含む）
- ④「井原“志”民力」の実態を把握し、それを活かした資質能力向上のため市内全小中高生を対象にアンケート調査の実施

⑤市内小学4年生以上の児童生徒を対象に井原“志”民力等に関する調査を実施

⑥井原“志”民塾・公開講座（6回開講、参加者延べ207名）



柱2：社会に開かれた教育課程の実現

①ふるさと教育・起業家教育の視点を取り入れたカリキュラム・マネジメントの促進に向けた研修会の開催（4回開催、参加者延べ103名）

②「ワーク&ライフ職場体験」の実施

・事業所に向いての職場体験（高屋・木之子・美星・芳井中学校の2年生、受入延べ65事業者）

・校内での職場体験（井原中学校：生徒154名、18事業者参加）

③ワーク&ライフ交流会（美星・芳井・高屋・木之子中学校、地域キャスト延べ30名、7団体参加）

柱3：地域社会・企業との連携

①地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業

・井原市ひとづくりネットワーク運営協議会の開催（2回開催、参加者延べ137名）

②ひとづくりサポート団体及び地域キャスト登録事業

・地域キャストグループ『井原Lovers』：登録者数（R4年度末現在）：79名

・中高生を中心とした井原市公認ふるさと井原魅力化団体『Team夢源♡井原』の運営

◇登録者数（R4年度末現在）

夢源Makers（中高生）…R4年度末現在登録者数9名

夢源Supporters（大学生・一般）…R4年度末現在登録者数45名

◇主な活動

芳井宵あかりや新町マルシェへの出店・出演、まなびフェスタ in いばら出演、井原市長選啓発チラシ作成・配付など



柱4：高等学校及び大学との連携

①市内3高校との連携促進・魅力化支援

- ・研修会の実施（市立高校3回開催）
- ・県立井原高等学校『デニム学』開催の支援（企画・進行、地域キャスト選定・派遣）

②市内中高校生の活躍の場を創出する「夢&志」つむぎ研究所『ゆめここ☆L a b@井原』の開催

- ・『ゆめここ☆L a b@井原』（登録者25名、ミーティング適時開催）
- ・中高生活動支援

IBARA “D” Lab：県立井原高等学校の有志生徒で構成。市内事業所とコラボした商品（抹茶を使用したスイーツ・ドリンク）を開発して販売

IBAR “ACT”：県立井原高等学校の有志生徒で構成。メンバーが好きな歌を用いて動画を撮影・配信して井原市を元気にする活動を展開。

チーム桜組：井原市立高等学校の有志生徒で構成。学校運営協議会とコラボして、学校の取組の外部発信や若者の居場所づくりにつながる取組を展開。

井原市制施行70周年記念『中高生企画委員』

：市内在住・在学の有志中高生で構成。令和5年度に迎える市制施行70周年記念を盛り上げるべく、記念行事や記念式典に係る取組を企画・立案。

③市内小中高校の研修会等へのアドバイザー（教授、学生）の派遣やひとづくり事業への学生の参加など、大学との連携促進

- ・岡山大学教養科目『地域の未来デザイン』開講支援（座学編、実践編：受講生・参加者延べ156名）

〇いばら就職支援事業（委託料 1,533,400 円）

①高校生向けのインターンシップの開催

- ・インターンシップ（夏：8月）の実施（受入事業者 11社、参加生徒 23名）
- ・インターンシップ（春：3月）の実施（受入事業者 9社、参加生徒 10名）



②高校生向けの合同企業説明会の開催

とき 令和5年1月13日（金）、14日（土）
 ところ 地場産業振興センター、アクティブライフ井原
 事業者数 20社（13日は18社、14日は20社）
 生徒数 13日110名（うち23名欠席）
 井原高校（北）87名
 14日30名（うち4名欠席）



③ガイドブックの作成（1,500部）



(4) 重要業績評価指標 (KPI)

	事業開始前 令和3年度	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)
社会増減数（転入－ 転出）【人】	-50	(目標) -48 (実績) -158	(目標) -46	(目標) -44
井原市や住んでいる 地域のことが好きな 生徒児童の割合（生 徒児童の郷土愛） 【%】	68.49	(目標) 69.69 (実績) 79.53	(目標) 70.89	(目標) 72.09
日々の生活に幸せを 感じている生徒児童 の割合（生徒児童の 幸福度）【%】	72.17	(目標) 73.17 (実績) 85.38	(目標) 74.17	(目標) 75.17
いばら就職支援事業 （合同企業説明会） における市内3高校 の在籍生徒数に対す る参加申込生徒数の 割合（市内事業所へ の関心度）【%】	13.69	(目標) 14.69 (実績) 14.83	(目標) 15.69	(目標) 16.69

3. 実績値 (R4) の評価

ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業において、地域と学校の連携・協働により井原市の魅力的な「もの」「ひと」「しごと」と出逢い、関わる学習活動や地域活動を積極的に取り入れたことで、郷土愛の向上につながった。また、学習活動や地域活動を実施する際には、児童生徒が本市や各地域の魅力拡大や課題解決に主体的に参画できる場を意図的に設定したり振り返りを重視したりすることで自らの努力や成長を実感できる機会が増え、自己肯定感及び有用感の向上が幸福度アップにつながった。

いばら就職支援事業では、インターンシップの回数を増やしたことで、参加生徒数の増加につながった。また、合同企業説明会については、在籍生徒数が減少するなかで、参加申込生徒数は前年とほぼ同数であることから、重要業績評価指標 (KPI) の目標値は達成することができた。

4. 元気いばら創生戦略会議（外部有識者等）の評価

ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業においては、生徒児童の郷土愛及び幸福度における目標値は達成しているが、当該事業が即座に社会増減数につながるものではないことから、今後も多くの市民を巻き込みながら、地道に取組を継続していく必要がある。

また、いばら就職支援事業においては、令和4年度の目標値を達成しているものの、事業者と学校双方のニーズに対応しながら取り組む必要があるため、実施方法については引き続き調整していくことが望ましいと考える。

5. 今後の方針

ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業では、引き続き、地域と学校の連携・協働体制の拡充を図るとともに、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入を進めながら、「地域とともにある学校づくり」と「学校（子ども）を核にした地域づくり」の一体的推進を図りたい。

また、いばら就職支援事業では、事業者と生徒がマッチングしやすい実施方法を模索することに加え、それぞれの負担軽減を図るために、合同企業説明会の開催期間の変更とガイドブックの電子化を検討する。